

令和6年度「学力向上を図るための全体計画」



本校の授業改善に向けた視点

指導内容・指導方法の工夫	評価活動の工夫	校内における研究や研修の工夫	教育課程編成上の工夫	家庭や地域社会との連携	小中一貫教育
<ul style="list-style-type: none"> ・「令和6年度改訂版大北小スタンダード」に基づき、学校全体で学習規律の徹底をし、授業を充実させる。 ・キャリア教育の基礎的汎用的能力を意識した継続的な指導を行う。 ・キャリア教育の重点目標を意識した授業改善を図り、児童が探究的に学ぶ（開校50周年記念行事）力を伸ばし、自己効力感を高める。 ・ICTや学校図書館を効果的に活用し、児童の探究心や想像力、情報活用能力を高める。 ・主体的・対話的で深い学びを目指す授業改善に向けて、児童が学習に見通しをもって取り組めるようにする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・指導と評価の一体化を図り、児童自身の学習評価力を高めると共に個々に適切な支援を行う。 ・児童のノートから個々の学習状況を把握するとともに、励ましの言葉を記すなど意欲を高める支援を行い、学習意欲の向上を図る。 ・各種データを基に、児童の変容を客観的に捉え、指導に生かす。 ・キャリア教育の3つの視点、学年のキャリア教育の目標に対して、児童の変容について評価を行い、指導の改善を図る。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ねらいを明確にした学習指導を推進し、基礎的基本的な学力の定着を図る。 ・キャリア教育のねらい（キャリア目標3つの視点・学年のキャリア目標）を明確にした授業実践を積み重ね、その成果を検証し、授業改善に生かす。 ・教師同士が授業を公開し合い、自主的に授業改善に取り組む。 ・校内研究会で講師から指導をいただき、指導力の向上を図る。 ・他校の研究会や各種研究会に参加し、指導法の改善に役立てる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・毎週学年会を行い教材研究の時間を確保する。 ・始業前15分間に朝学習を設定し、国語、算数の基礎基本の定着を図る。 ・児童の学習評価に関わるアンケート、地域・保護者対象の外部評価を実施し、評価委員会で諮り教育活動の改善を行う。 ・各種データに基づき授業改善を図るため、PDCAサイクルを確立する。 ・各学期につき、2週間程度「算数得点アップウィーク」を設定し、前学年の学習内容を復習し、習熟を行う。 	<ul style="list-style-type: none"> ・学校公開やキャリア教育を意識した道徳授業地区公開講座を実施し、保護者・地域とともに、児童の健全育成を図る。 ・学校行事（開校50周年記念行事）を通じて、地域から学ぶ関係をより構築するとともに連携を深める。 ・「スッキリ生活」などを通して、学校と家庭が共通して取り組み、生活習慣の改善や体力向上を図る。 ・「令和6年度改訂版大北小スタンダード」を生かしながら、家庭と連携し、ニューノーマルな学びの確立に向け、タブレット端末を活用したICT教育の推進を図る。 	<ul style="list-style-type: none"> ・小中一貫教育を進め、小中9年間を見通した学習・生活スタンダード「めざす15歳の姿」を共有する。 ・課題改善カリキュラムに基づき中学までの指導内容を見通して教材研究を行い、当該学年における基礎的基本的な学力を確実に身に付けさせる。 ・ICTの活用を通じて、持続可能な学習習慣の工夫を図る。 ・家庭学習を習慣化させ、小中が連携して家庭学習の定着を図る。 ・それぞれの校種におけるキャリア教育について共通理解を図り、連携を図る。（本校開催の校区別協議会）

